

## 第三節 戦争災害

### 一 昭和十八年（一九四三）

十一月五日、午後六時十分ごろ、米潜水艦一隻によって、小米港約二キロの沖合いより、小米市街地へ二十数発の砲撃があり、即死一人、負傷一人、被害家屋四棟に及んだ。これが本島での最初の敵襲である。そのため七日まで灯火管制をし、海上警戒を厳にした。

### 二 昭和十九年（一九四四）

十月 十日 午前七時、空襲警報発令。  
喜美留の「マハダグムイ」沖に停泊中の輸送船六く七隻めがけ、グラマン二機で空襲、幸い撃沈されたものはなかった。午後三時

ごろ、空襲警報は解除された。  
沖繩方面に爆音あり。米国機動部隊、沖繩付近に来攻の報を受けた。

十二日 空襲警報発令。  
十三日 空襲警報発令、午後六時解除。  
十七日 空襲警報発令。

\*役場は十月中に和字の和野さん宅に疎開。  
前後して、農協、郵便局、警察、和泊国民学校も和字に疎開。書類保管のため、防空壕を掘ったり、ソージゴの山に、簡単なかやぶき家を建てたりした。

十二月十九日 空襲警報発令。  
二十二日 大城校で部隊葬あり。

### 三 昭和二十年（一九四五）

一月 九日 警戒警報発令。  
二十二日 十一時五十分、空襲警報発令。十三時敵戦闘機三、爆撃機五機来襲。被害なし。沖繩島へ百三機、喜界、徳之島、大島本島へ三

十五機内外来襲。輸送船、港湾、飛行場、市街地等に被害を受く。  
吉岡部隊長、徳之島よりの帰途、亀津沖で機銃弾を受け、戦死す。

二十三日 十四時、空襲警報解除。  
三十日 グラマン四機で初空襲あり、北東より進入。監視哨から大隊本部に「撃つか」と照会したら「撃つな」とのことだった。

二月十四日 午前十時、空襲警報発令。  
十五日 午後三時、空襲警報解除。  
十八日 午前十一時警報なしに敵双発機来襲。輸送船を爆撃す。

三月 一日 午前八時、米艦載機十四機来襲。島内各所襲撃一時間にわたる。  
和泊沖船舶泊地（フーグチ）に停泊中の輸送船四隻をグラマン四く七機で襲撃す。輸送船乗客の前田池義医師、梶原冬さん、受験のため上鹿予定の内城小六年後蘭の平忠彦君、和泊小高二喜美留の伊地知ユキさんほか数名死亡す。

午後再び来襲。和泊青年学校全焼し和泊、手々知名で火災。畦布北アタイで炎上するも消し止む。島尻、正名、田皆の民家炎上す。  
午後艦砲射撃もあり手々知名で二棟焼失す。

六日 午後二時半、日本陸軍戦闘機屋子女海岸に不時着す。  
十五日 敵機来襲。  
二十日 グラマン機が皆川、古里を銃撃す。  
二十三日 午前七時、空襲警報発令。  
米軍沖繩作戦開始。

二十四日 砲声沖繩島付近より終日聞こゆ。  
敵機来襲。和泊・喜美留で火災を生じたるも消し止む。  
艦砲射撃を受け喜美留の喜ハルさん宅全焼。山本新森さん宅屋根の一部焼失。  
国頭校およびその周辺に二百五十キロ爆弾八個投下あり。同じころ和泊の与名原平の農協倉庫と道一つ隔てた南側の畑に二百五

十キロ爆弾の投下あり。また内城校北側の田圃にも爆弾の投下があった。いずれも人畜の被害はなかった。

二十五日 本島各地襲撃を受く。

敵は二十三日慶良間列島の一部に上陸せり、という。

二十六日 朝より敵機来襲。南東海上に砲声聞こゆ。

二十七日 敵機各地に来襲。和泊二百五戸炎上。国頭

四戸、永嶺八戸、機関砲・焼夷弾投下、晴天続きにて炎上す。

二十八日 敵機来襲。沖繩方面より砲声終日聞こゆ。

二十九日 敵艦四隻沖繩方面より現れ、本島南海上を哨戒す。砲声いんいんと沖繩方面より聞こえる。敵機たびたび来襲。

三十日 敵機来襲。砲声沖繩より聞こゆ。

敵艦四隻南海面を哨戒す。

三十一日 敵機来襲。夕刻大部隊の空軍西南海上に去る。砲声沖繩方面より聞こゆ。

敵艦四隻本島南海上哨戒の様なり。

夜間日本機と米艦との戦闘あり。

\*三月下旬から四月上旬にかけて「よくも弾丸があるものだ」とか「もう沖繩には人間は一人も生きていないぞ」と思うくらい、艦砲射撃が激しかった。その艦砲射撃もいくらか下火になってくると、

特攻機による敵艦攻撃がはじまる。

四月 一日 米軍はついに沖繩に上陸したという。(約

十八万とか)

四日 早朝より与論島周辺に艦艇出沒し哨戒の様。十時ごろ駆逐艦らしき二隻大山基地を砲撃す。その後駆逐艦二隻が、沖永良部島

を一巡しながら艦砲射撃を加えた。

国頭校も艦砲射撃を受けたが、砲弾は北側の土手に当たり、建物に被害はなかった。

五日 昨日に続き本日も、駆逐艦は島を巡り砲撃を加えてきた。

敵機より爆弾投下あり。和泊校大部分火災炎上す。国頭字に被害あり。大城校第一回

目の機銃掃射を東・南校舎に受く。

七日 敵機来襲するも投弾せず。

敵哨戒艦、与論島東西海面に各一隻ずつ終

日現る。哨戒の様なり。

午後四時ごろ、友軍特攻隊二百機余り南方へ飛ぶ。

八日 早朝より敵機本島上空警戒。午後与論島東

方に哨戒艦現れる。午後二時過ぎ和泊に爆弾投下あり。

九日 敵機来襲するも投弾せず。敵哨戒艦、南の

水平線上に三つ四隻現る。

十一日 与論島西方海上において敵艦二隻、黒煙をあげながら沈没す。

友軍双発爆撃機一機、グラマン四機の攻撃を受けながら北方へ飛び去る。

十二日 与論島空襲の様にて、盛んに黒煙あがり、敵機上空を旋回す。

十三日 与論島付近の地平線上に、敵哨戒艦六隻終日現る。

グラマン機旋回す。

十四日 与論島は空襲の様にて黒煙のあがっているのが見える。敵機上空を旋回す。

十五日 午後一時半ごろ空襲あり。知名方面燃える。役場全焼の由。

大城校銃撃を受く(一回目)。東校舎燃えず。

十六日 午前十時、友軍爆撃機出動し交戦あり。

午後、グラマン海上哨戒す。

十八日 午後、シコルスキー四機編隊が後蘭の田志

木名保から南方へ。田植準備のため苗取り

中の人々目がけ銃撃した。幸い人に被害は

なかったが、後蘭の平島弘さん宅茅葺き屋根が炎上したが消し止めた。西島仁さんの飼牛が銃弾で斃死した。

当日は赤嶺、久志検でも空襲による、死傷者が出た模様である。

十九日 早朝来、敵機来襲。

午前十時ごろ、知名校空襲を受く。

二十日 敵機来襲。屋子母の西方面、空襲により五十四戸焼失。

二十二日 早朝来、シコルスキー十二機来襲。午後四

時再来襲。正名、屋子母、知名に被害あり。二十三日 シコルスキー来襲。

二十六日 大城校機銃掃射を受く。本校舎、三回目。  
二十七日 敵機来襲。  
二十八日 敵機来襲。

五月 九日 敵機来襲。大城校本校舎に機銃弾を受く。

これで四回目。幸い炎上せず。  
\*連日のように民家を機銃掃射していた敵機も、四月下旬ごろから作戦を変更したのか、五十キロ爆弾、百キロ爆弾、時限爆弾等を投下するようになり、ロッキード機や他の双発機の単機による低空爆撃が目立つようになった。朝六時ごろ、沖繩を基地とするB 24、B 29の重爆撃機の大編隊が戦闘機の護衛なしで北上するのが何日も続いた。またB 29の編隊が沖永良部上空を北へ飛んでいくのが見えるようになった。

敵機が二機ずつで三層になり、終日沖永良部上空を旋回し、また北海岸の瀬名、ハン崎の黒瀬をめぐらして、編隊で日に何回となく繰り返し爆撃する日が続いた。黒瀬を軍艦と見間違っているのではないだろうかとか、爆撃の練習をしているのだろうかなどと話したものであるが、爆撃目標を想定

して爆撃訓練をしていたのかもしれない。それにしても惜しげもなく投下する爆弾!!物量の豊かさを誇示するかにも見え、ねたましい限りであった。

この黒瀬を軍艦岩などと呼称するようになったのはこれによるのである。

沖繩戦の不利が報ぜられるとともに、五月には敵軍の沖永良部上陸が伝えられ、それを想定し、それに備えて、越山の周辺やその他主要な箇所に戦車壕を掘ることになったが、その作業はほとんど夜間だった。その作業中に照明弾や曳光弾等の投下があり不気味なものだった。

十六日 敵機来襲。大城校機銃撃を受く。五回目。

二十二日 敵機来襲。B 29三機編隊の一機が瀬名の阿美川アミガハの一軒家大山さん宅を銃撃し、大山中興氏、市来ツルさん(二十六歳)即死す。

二十六日 敵機来襲。大城校西校舎、小使室、便所等に銃撃を受く(六回目)。

六月 六日 敵機哨戒中銃撃なし。

七日 夜間各所に照明弾や曳光弾を投下す。爆弾

投下せし模様。

沖繩島彼我激戦中なりという。

八日 敵機数次にわたり飛来す。夜間東方に爆発音あり。

九日 敵艦載機シコルスキー終日哨戒。

沖繩南方地区激戦中なり、と。

十日 敵機の爆音絶えず。正午ごろ空中戦の銃音聞こゆ。

十七日 敵機来襲。

十九日 敵機来襲。知名校に爆弾投下。

二十三日 沖繩戦終わる。(牛島司令官摩文仁で自決)

七月 七月になって敵機は「大東京上陸五分前」などの宣伝ビラをまいた。

五日 敵機来襲。戦闘機の銃撃により知名青年学校全焼す。

六日 敵機来襲。大城校全校舎銃撃を受くるも炎上せず。(七回目)

八日 敵機来襲。大城校銃撃を受く。(八回目)

十六日 敵機来襲。大城校西校舎銃撃を受く。(九回目)

十七日 敵機来襲。大城校西校舎銃撃を受く。(十回目)

二十一日 夕方B 29が来襲し、手々知名付近に爆弾や空中で炸裂する爆弾を投下した。沖元綱屋敷の防空壕に避難していた六人のうち五人が爆死した。すなわち、大坪盛茂氏スギ夫妻、有川タキ、ヨシエ母娘、柴清則(通称ヘーグワジヤヤ)の五人である。有川カネさんが一人生き残った。

また、手々知名の小字ビシジヨウ付近で、谷元義和さん、伊集院周熊さん、川辺隆泉さん(通称ヤグ)、内間久善(通称カナ・四十一歳)さんが死亡した。

手々知名のタガミ屋(上別府氏宅)に艦砲射撃を受けた。

その後敵機の哨戒は少なくなり、それに比し、重爆撃機の大編隊が北上する日が続いた。また夜間、沖繩から軍人が小舟で来るようになった。

八月十五日 終戦詔書の玉音放送があつたが、軍部は事

戦時災害確災状況

大島支庁調

町村名	区分		計	住宅危害		非住宅危害	
	死	行方不明		全潰焼	半潰焼	全潰焼	半潰焼
名瀬	二		二			三、〇二三	三八一棟
三方	三三		三三			五五〇	二七六棟
大和	一四		一四			四六二	三七一棟
字検	一五		一五			一三三	一四五棟
西方	六		六			一六三	一四七棟
実久	二五		二五			三四七	八〇棟
鎖西	二		二			五四六	六八一、〇五九棟
古屋	九		九			一〇八五	五三五棟
住用	二		二			一五九	一六六棟
竜郷	七		七			二四二	五八〇棟
笠利	五		五			三七八	四六八棟
喜界	六		六			一、一六〇	二〇九、六五九棟
早町	四		四			一、一四七	一、六八一棟
亀津	二		二			七五〇	六三九棟
東天城	一〇		一〇			一八〇	
天城	四五		四五			四二八	
伊仙	一八		一八			一八七	
和泊	一九		一九			三六六	一四五棟
知名	一三		一三			一、二二	
与論	四		四			四五二	
十島	二〇		二〇			三〇九	
計	四六一	一七二	二九九	九三三	二、六六九	六、一八五	八、〇九九
					六二六	二、一八五	三八二棟
							一八、四三三棟

「大島郡戦災風水害復旧戦後緊急対策資料」による。

の重大さに驚き、これを秘めて発表しなかつた。当時沖永良部の民間にはラジオもなく終戦を知らなかつた。徳之島からの帰還兵を脱走兵と間違える一幕もあつた。終戦が発表されたのは八月二十八日である。